

S1-A3

Fujitsu Experience Day 2026

FUJITSU

S M B C日興証券×富士通 AI駆動型モダナイゼーションで 実現する事業価値変革

S M B C日興証券
執行役員 システム担当 吉岡 伸輔

富士通株式会社
モダナイゼーションナレッジセンター長 SVP 伊井 哲也

2026年7月15日

本セッションの主旨

本セッションでは、富士通の先進的なAI技術と、モダナイゼーションの知見・経験を結集し、圧倒的なスピード感でシステム変革を加速させる『AI駆動型モダナイゼーション』の最前線をご紹介します。S M B C日興証券様との協創を通じて、いかにレガシーシステムが抱える高コスト・技術者不足といった課題を解決し、かつてない速さで事業価値変革を実現していくのか。その具体的なアプローチと、AIがもたらす革新的な可能性について、両社の実体験をもって深く掘り下げます。

吉岡伸輔 Yoshioka Shinsuke

執行役員 システム担当

- 1992年 住友銀行に入行
- 2000年 ソニー株式会社に入社
- 2001年 ソニー銀行株式会社に入社
- 2007年 三井住友銀行入行（ニューヨーク駐在）
- 2014年 S M B C 日興証券株式会社にて要職を歴任
- 2021年 執行役員としてシステムおよびデジタルイノベーション領域を統括
- 2024年 執行役員 システム担当（現職）





伊井 哲也 li Tetsuya

モダナイゼーションナレッジセンター長 SVP

- 1990年 富士通株式会社に入社
金融（銀行）アカウントを経て、サービスデリバリ、マネージドサービス、クラウドサービスの事業基盤開発を担務
- 2012年 シンガポール駐在、アジア域Managed Infrastructure Service事業責任者
- 2019年 データーセンターサービス事業本部長
- 2021年 デジタルインフラ戦略プロモーション室長
- 2023年 インフラ&ソリューションセールス本部長
- 2024年 モダナイゼーションナレッジセンター長として、
全社モダナイゼーション事業を推進中

本日のアジェンダ

Session 1

**S M B C 日興証券が語る
システム変革への挑戦とAIへの期待**

Session 2

富士通のモダナイゼーションの取り組み

Session 3

**協創が実現する事業価値
AIドリブンモダナイゼーションの実践**

Session 1

S M B C 日興証券が語る システム変革への挑戦とAIへの期待

S M B C 日興証券株式会社 -会社概要-

会社概要（2026年3月時点）

設立	2009年6月15日
創業	1918年7月7日
人員数	8,776人
国内本支店	102店舗
海外拠点数	14拠点

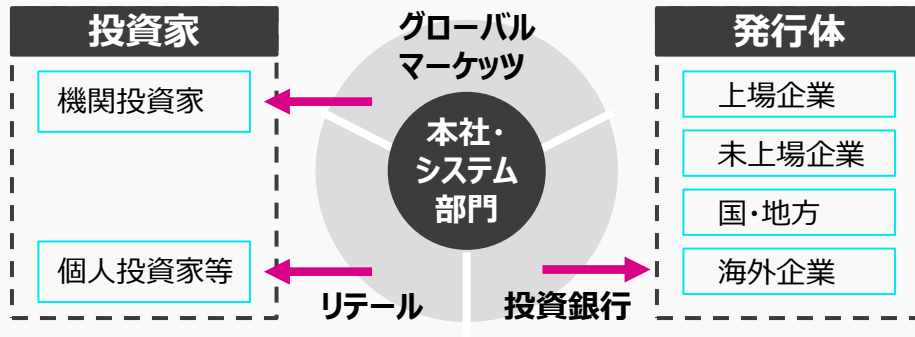
沿革

- 1918年 創業者遠山元一が川島屋商店創業
- 1944年 旧日興証券と川島屋証券が合併し日興証券に
- 2001年 日興コーディアル証券に社名変更
- 2009年 三井住友銀行が株式を100%取得し完全子会社化
- 2018年 S M B C フレンド証券と合併

資本関係



弊社ビジネス領域



レガシー維持から、新サービス投資へ振り向けるためのモダナイゼーション

1 ブラックボックス化、レガシー技術者不足

ブラックボックス化によるメンテナンス性の低下
レガシー技術者、COBOL技術者の市場からの調達が困難

2 モダナイゼーションの長期化

レガシーシステムの運用・保守費用の高騰
レガシー/分散化システムの双方の開発コスト負担大、複雑化するシステム連携

3 投資を「攻め」にまわせない

維持費の比率が高く、競争力強化のために資源を振り向けにくい構造
新サービス投入スピードが上がらない状況

S M B C 日興証券の『強さそのもの』をカタチにする

ブラックボックスを解消し、高い保守性を実現

ブラックボックス解消と技術者依存からの脱却
将来の変化に追従できる保守性の高いシステムを実現（当社標準アーキテクチャに準拠）

圧倒的なスピードでモダナイゼーションを加速

AIによる設計書リバースとプログラム生成により、長期化していたモダナイゼーションを加速
市場変化や制度改正へ迅速に対応できる俊敏なシステム基盤を実現

事業価値を生み出す攻めのシステム基盤の確立

レガシー維持から新サービス創出へ投資をシフト
新たな金融サービス創出を支えるAI-Readyな基盤を実現

Session 2

富士通のモダナイゼーションへの取り組み

モダナイゼーションへの取り組み

当社モダナイゼーション事業の専任組織

CoEを設立し全社活動



モダナイゼーション ナレッジセンター

モダナマイスター100名を含む、
総勢300名（FY26・4現在）

富士通のビジネスセグメント

他社機モダナイが400億円

25年度実績
前同比 +40%

他社機モダナイゼーション実績

業種

- ・ 製造業/流通業
- ・ 金融業
- ・ 情報産業、サービス業
- ・ 出版業
- ・ 公共 等

既存ベンダ

- ・ I社
- ・ H社
- ・ N社
- ・ M社
- ・ T社 等

既存機種

- ・ メインフレーム
- ・ UNIX
- ・ IAサーバ
- ・ クラウド 等

最新技術でモダナイズを加速

サービス開発 / 新技術適用

- ・ 資産分析可視化
25年リリース
- ・ 上流コンサル
25年リリース
- ・ AWS協業
BluAge24年3月リリース
- ・ Enterprise Architecture実装
- ・ オフショア活用最大化(24h)
- ・ 生成AI適用実践
25年先行適用

レガシーモダナイからAIドリブンモダナイへ

AIドリブン型モダナイに注力

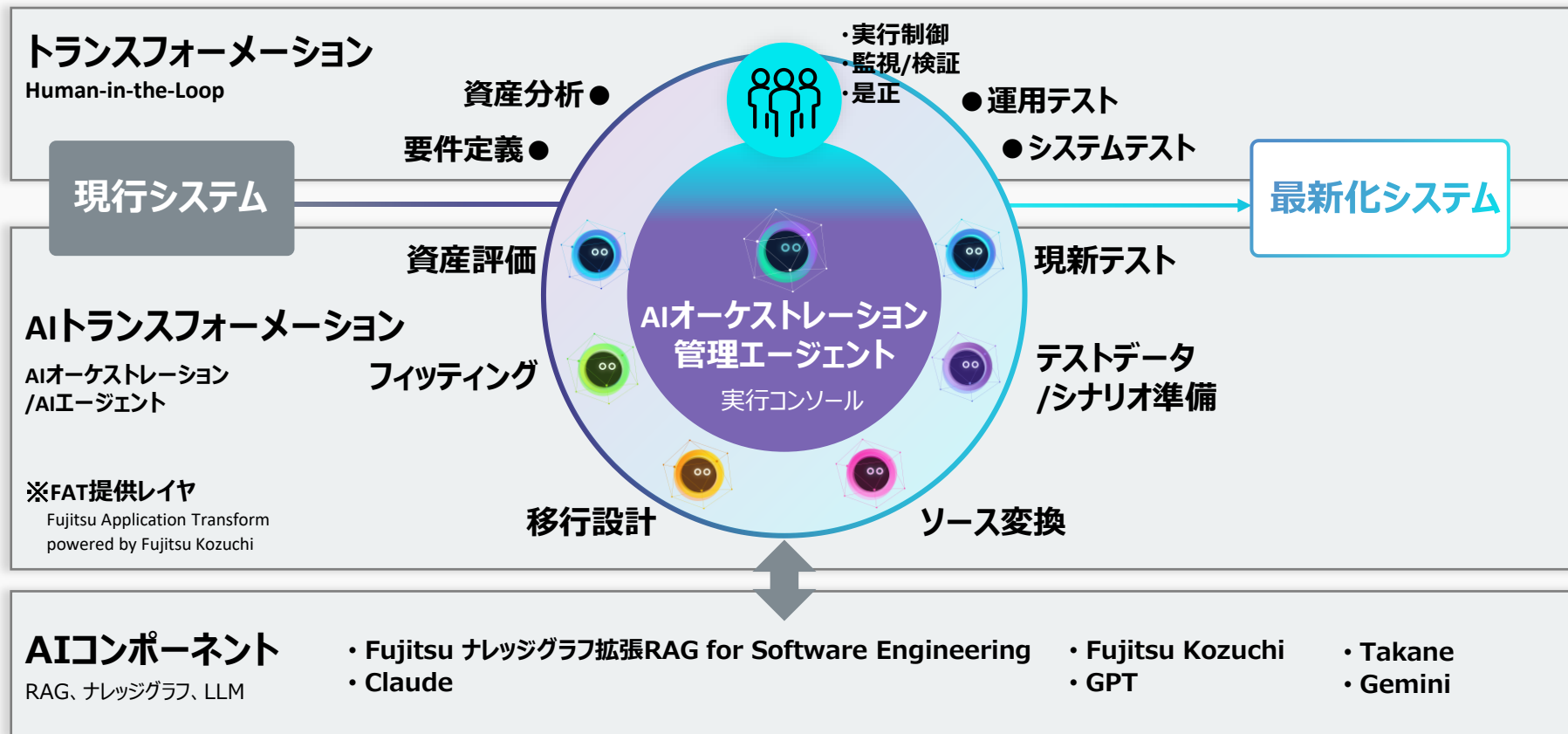
富士通研究
所AI技術

+

先端LLMの
最適実装

+

富士通の
モダナイゼーション
ナレッジ





独自ナレッジのAI実装

-数千規模のプロジェクト知見/研究所技術を実装-



マルチAI型モダナイゼーション

-自社LLM「TAKANE」を軸に最先端AIを最適編成-



アーキテクチャードリブンモダナイゼーション

-プログラム・フレームワーク・インフラのアーキ差異に着目したモダナイゼーション-

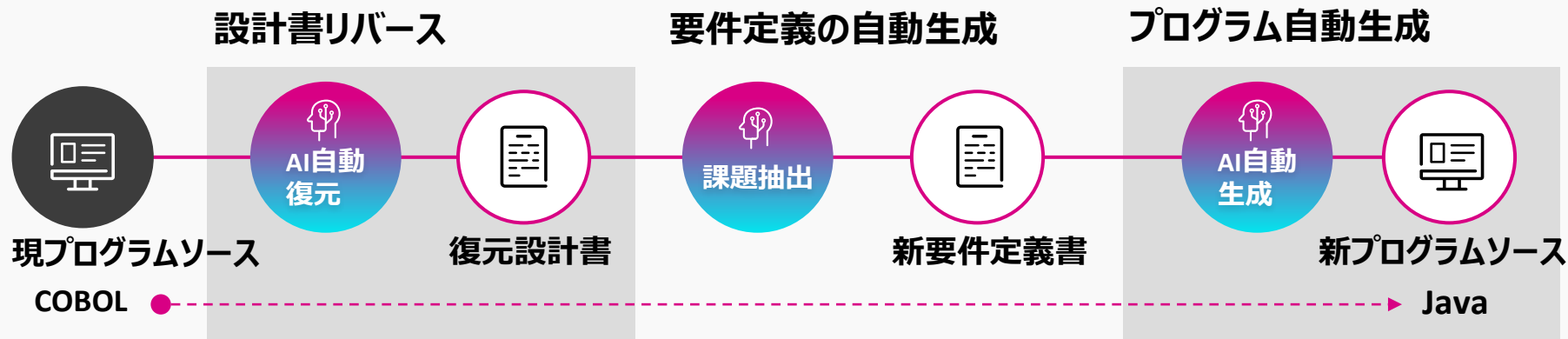
高速化と高品質化

-独自AI手法によりお客様の多様なモダナイニーズに対応-

内製化基盤の提供

-お客様自走によるAI活用を支援-

S M B C日興証券に先行提案・先行実施のソリューション： 設計書リバーズ&プログラム自動生成



業務視点で捉えた高品質・高精度な設計 情報を自動生成（業界初）

構文情報、制御・データフロー解析、呼出関係解析などソース
コードの静的解析結果を包含

課題発見エージェントが肥大化・複雑化箇 所を特定、ソースコードのスリム化、リファク タリングを実施しソースコードを生成・改善

新アーキテクチャに沿って設計する際にもクラス分割などが適正か
評価し、新設計書に反映

Session 3

協創が実現する事業価値 AIドリブンモダナイゼーションの実践

レガシー維持から、新サービス投資へ振り向けるためのモダナイゼーション

3つの課題

1 ブラックボックス化
レガシー技術者不足

2 モダナイゼーションの長期化

3 投資を「攻め」にまわせない

AIドリブン
モダナイゼーション

AI活用による解決策

AI活用による、透明性と
柔軟性の高いシステムの実現

AI駆動型アプローチによる、
開発・変革期間の短縮

AIによって変革されたシステムが
新たな事業価値を創出

ブラックボックス化、レガシー技術者不足

AI活用による、透明性と保守性の高いシステムの実現



ブラックボックス解消と「わかりやすい仕様」への変換

レガシー資産からの設計書自動復元で、システム理解の脱人間依存と、現代技術者にも容易な「わかりやすい仕様」への転換



従来の技術依存からの脱却と持続可能な開発体制の構築

COBOL等の特定技術への依存から脱却。新しい技術者が早期に参画・活躍でき、自律的に成長し続ける開発体制を目指す



「保守性」を追求した変化に強いシステム基盤

AIによるレガシーコードのスリム化・リファクタリングとターゲットアーキテクチャに基づいた現代的コードの生成（COBOL→JAVA）



Fujitsu Kozuchiによる設計書自動生成例

###処理概要:

このプログラムは

Fujitsu Kozuchi 適用

「従業員の入力レコード」(一般的なAI:「固定長形式の入力ファイル」)
を読み込み、特定の条件に基づいて計算を行い、
結果を出力レコードに書き込む。計算には

Fujitsu Kozuchi 適用

「従業員の役職や特定のスコア」(一般的なAI「フィールドの値に基づく」)
が考慮される。

###入力レコードのスキーマ (項目名)

Fujitsu Kozuchi 適用

- 従業員番号 (a4)	- a4: CHAR(4)
- 名前 (a5)	- a5: CHAR(20)
- 基本給 (a6)	- a6: DEC FIXED(7)
- 種類1 (a7)	- a7: CHAR(1)
- 種類2 (a8)	- a8: CHAR(1)
- コード (a9)	- a9: CHAR(2)

ターゲットアーキテクチャに基づいたJavaコードを生成例

COBOL がJava に再構成されている
Kozuchiの設計書情報がソースのコメントにも入っている

```

27 // 別の人物を生成
28 Person anotherPerson = new ForeignPerson(name: "Alice", age: 25, country: "Australia", visaStatus: "valid");
29 out.println(anotherPerson.greet());
30
31 Greeter greeter = new GreeterImpl();
32 greeter.sayHello(name: "John");
33
34 String[] names = {"Bob", "Charlie", "David"};
35 for (String name : names) {
36     out.println("Hello, " + name + "!");
37 }
38
39 try {
40     int result = divide2(numerator: 10, denominator: 0);
41     out.println("Result: " + result);
42 } catch (ArithmeticException e) {
43     //

```

生成AIが設計書に記載のない情報を一部推論で出力。
人によるレビューのため“@TODO印”を生成AIが記載

```

39 try {
40     int result = divide2(numerator: 10, denominator: 0);
41     out.println("Result: " + result);
42 } catch (ArithmeticException e) {
43     System.err.println("% Error: Division by zero.");
44 }
45
46 // @TODO 国語をprintln
47 AbroadInfo abroadInfo = new AbroadInfo("japan", "active");
48 GreetingService greetingService = (message) -> out.println("AbroadInfo: " + mesabroadInfosage);
49
50 GreetingService greetingService = (message) -> out.println("Greeting: " + message);
51 greetingService.greet("World");
52
53
54
55

```

※実際のお客様のプログラムソースではございません

モダナイゼーションの長期化

AI駆動型アプローチによる、圧倒的な開発・変革期間の短縮



AIによる既存資産の"超"高速解析・理解

設計書リバースによるレガシー資産の瞬時解析と「人が理解しやすい」設計情報自動生成

➡ 従来の解析にかかる膨大な時間を劇的に短縮し、ボトルネックを解消



変換ツールで困難だった"Javol"の解消とプログラム自動生成

S M B C 日興証券様標準フレームワークに準拠し、将来の大規模改修にも柔軟対応

➡ 人手で実行するしかなく「後回しになり、長期化」していた課題を根本から解決



ビジネスニーズへの俊敏適応を支える基盤

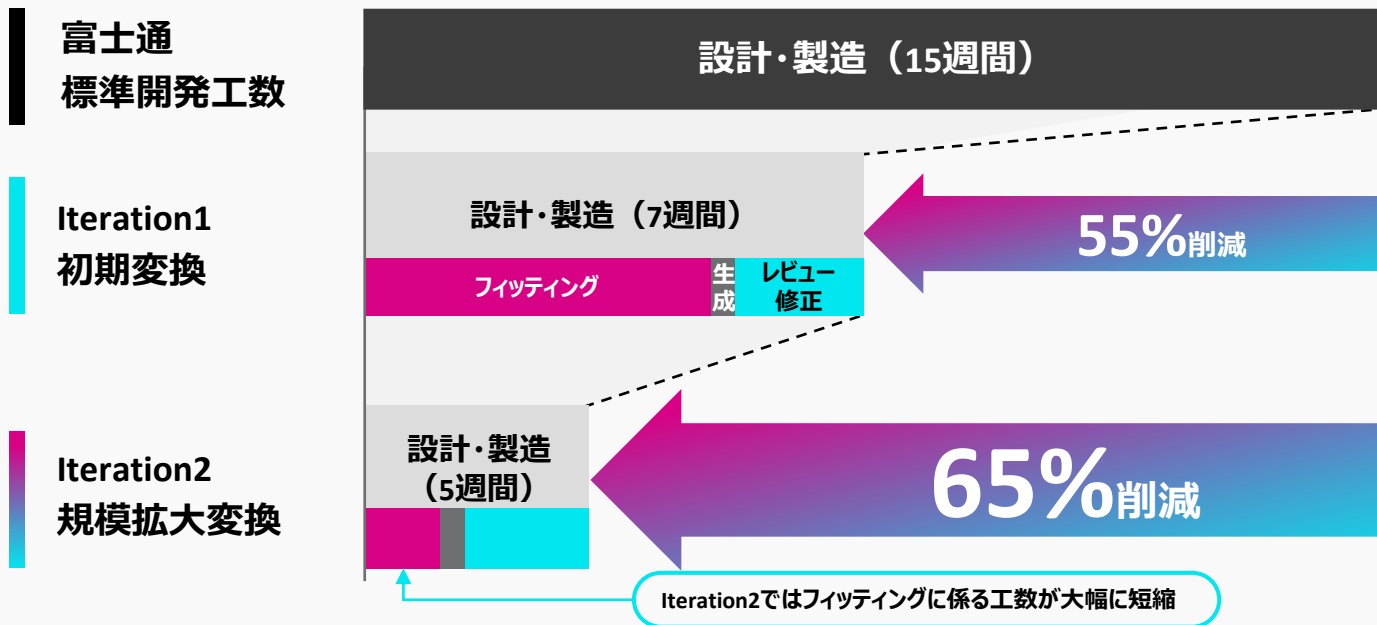
スピードが重要というS M B C 日興証券様の求めるニーズに直接対応

➡ かつてない速さで市場変化対応と新サービス提供を可能にする俊敏な基盤を実現



設計・製造工程におけるAI活用効果

- 設計書リバーサルで復元された設計書・RAG情報をもとに、プログラムソースを自動生成
- 現行COBOLから、Javaへのプログラムソース生成工期を65%短縮



投資を「攻め」にまわせない

AIによって変革されたシステムが、新たな事業価値を創造



圧倒的な変革スピードが拓く、未来への先行投資

市場変化への迅速な対応とイノベーションを可能にする、真に将来を見据えたIT戦略の起点に



AI駆動型開発のノウハウ蓄積と人財の育成・戦力化

AI活用の経験値を組織資産として蓄積。先端技術に精通した人財育成と早期戦力化を推進



持続的な成長を支える「自動化されたIT運用」(今後の予定)

AI管理/レビューエージェントによる運用の効率化・品質向上と付加価値業務へのリソース集中





AIが進化させる「自己進化型モダナイゼーション」

- ー継続的な学習と改善による最適化 (大規模言語モデル『Takane』によるAIドリブン開発基盤：2026年2月17日プレスリリース)
- ーマルチAIエージェントによる自律的なシステム変革 (自己進化マルチAIエージェント技術を開発：2026年5月25日プレスリリース)



モダナイゼーション後の「AI駆動型運用・保守」の実現

- ーシステムライフサイクルの全般をAIでサポート (「Fujitsu Kozuchi Enterprise AI Factory」(2026年1月26日提供開始)
- ー付加価値業務へのリソース集中



お客様自身がAIを自在に活用する「自走化開発基盤」の確立

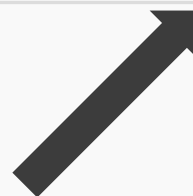
- ーAIドリブン開発ノウハウのオープン化 (OpenAIとの連携：2026年5月27日プレスリリース)
- ー迅速なイノベーションを可能にするエコシステム (Anthropicと戦略的パートナーシップ契約：2026年5月27日プレスリリース)

まとめ

両社の知見融合で、「攻めのIT」への転換を目指す

3 事業成長の加速

新サービス創出による収益機会の拡大
市場変化に即応した迅速なビジネス展開
データ活用による顧客価値・収益性の向上



2 AI活用ナレッジと 人財のロールアウト

期間短縮と
リリース早期化



今回のターゲット

1 ホストモダナイゼーション

Kozuchi
設計書リバー
コード自動生成



実践事例と協創の成果と今後

協創が拓く成功の道筋：S M B C 日興証券 × 富士通

FUJITSU

**スピード
効率化・保守性**

AIでS M B C 日興証券の『強さ』をカタチに
持続的な競争優位性の確立に向けて

**AIの有効性
協創の道筋**

AIがもたらす圧倒的な事業価値を実証
お客様と共に豊かな未来を創造

Thank you



モダナイゼーションに関するご相談・お問合せは
こちらにお願い致します

モダナイゼーションイベント事務局

・e-mail : contact-fjpp-moder@cs.jp.fujitsu.com